

グループホーム やすらぎ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		「人間らしく、自然のままに、地域と共に」の理念を掲げ、常時目に付く場所に明示している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		理念を事あるごとに振り返ることにより、日常のケアに具現化できるように努めている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		入所時の説明により家族の理解は得ているが、地域への浸透は不十分である。 地域区長や民生委員を通じて地域住民とネットワークを作り、地域の中で暮らし続ける大切さを訴えていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		行事参加の呼びかけなどを通じて、気軽に立ち寄ってもらえる雰囲気作りに努めている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の方々にはホーム行事に参加いただくことで交流を深めているが、地域の活動に参加したことはない。 地域区長や民生委員を通じて地域へ働きかけを行い、準備を整えている段階である。

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域の高齢者のためになる取り組みは現状では行っていないが、地域のため且つスキルアップのためにも取り組みを検討したい。</p>		<p>外部研修や内部研修の機会を増やし、必要なサービスが提供できる基盤の構築に努める。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>スタッフ全員で現状を振り返り、取り組めていること、取り組めていないことなどの事実を確認する絶好の機会ととらえている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は外部の率直な意見を聴ける場であり、その後のサービスに活用している。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市担当者と相談しながら物事を進めることで、サービスの向上や透明化に努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要に応じ、個々に対応している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入居者の方々を人生の先輩として敬う心でケアに臨むことを周知徹底させている。</p>		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には退居時のことも含め十分な説明を行い、家族や利用者の不安解消に努めている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>要望箱や苦情対応委員会を設置し、利用者の意見、要望、苦情の早期解決に努めている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時には家族に日々の暮らしぶりを報告するなど、家族とのコミュニケーションを大切に、何でも話し合える関係作りに努めている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情は宝と受け止め、速やかな対応を心がけている。あわせて公的窓口の紹介も行っている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>個別にまたはミーティングを通じてスタッフの意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化に応じた人員配置はいつでも可能な体制にある。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動ややむ得ず離職する場合は、十分なひきつぎの時間を設けることで入居者にダメージを与えないよう配慮している。</p>		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員採用は性別や年齢にはよらず、人柄と介護への情熱を重視している。また、参考になる意見はすぐに取り入れるなど職員一人一人の意欲が継続し、能力が発揮できるように努めている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>入居者の方々を人生の先輩として尊重する意識は職員に代々受け継がれており、入居者の人権は尊重されている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員のスキルアップは推奨しており、必要に応じた援助を行っている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者同士の交流の機会はない。</p>		<p>サービスや職員の質の向上のためにも、同業者へ働きかけを行い交流を実現したい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員間のコミュニケーションを大切にし、率直な意見交換ができる雰囲気作りに努めている。</p>		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員一人一人の長所を見出し認めることで、職員の向上心が育つように努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所は、本人よりも周囲の関わりのある人達の意思が優先されていることが多い。それだけに入所の決定後は本人とじっくり話す機会をもち、本人の望む生活が提供できる努力をしている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族等とは十分な話し合いを重ねてコミュニケーションを図ることで、気軽に相談できる関係を築けるように努めている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者にとって何が必要かを第一に考え、必要な援助を行っている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の状態を見極め、場合によっては体験入所をしてから決定をいただくなど、その都度の対応は心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	出来る事はご本人と一緒に取り組むなどして、意欲を奪わない支援を心がけている。入居者の方々とのコミュニケーションを何よりも優先し、共に過ごす時間を大切にしている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	よりよい暮らしを目指して、家族と相談し必要に応じた協力を得ながら、ご本人を支えている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	生活歴、家族との関係、入所に至る経緯は職員全員が把握できるように努めている。そのうえで、入所後の関係がより良くなっていけることを目指して、必要に応じ家族やご本人へ働きかけを行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人に会ったり馴染みの場所を訪れたりできるよう、ご本人の要望に応じて面会のお願いや外出の支援を行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりを把握し、居場所や職員の配置を工夫することで良好な関係構築に努めている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	やむを得ず退居となった方々や家族に対し、共に過ごした仲間として関係を断ち切る事はなく、必要時に必要な支援を行う体制は整えている。		
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	内容いかんに関わらず訴えにはきちんと向き合って対応することをスタッフに周知徹底させることで、意向把握に努めている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、生活環境、その他必要な情報はミーティングや担当者会議等にて職員全員が把握できるように努めている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の現状を総合的に把握し、個別ケアに反映させている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の生活歴、身体状況、精神状況、本人や家族の要望を踏まえ、本人・家族・関係者と十分な協議を重ねて課題を明らかにしたうえで、本人がより良く暮らすための介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直しを行っている。状況の変化により介護計画の変更が必要になった時は再アセスメントを行い、関係者と協議した上で、新たな介護計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	内部研修や個人指導などにより、全ての職員が体調・会話・変化・気付きなど必要な情報を全て日々の介護記録に記入できるように努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の状況や要望に応じた個別ケアを実践している。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて地域資源の活用を検討する準備はあるが、今までのところ事例はない。		必要に応じて地域資源の活用を検討したい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性があれば検討するが、過去に事例がない。		退居を希望する場合など、必要時には十分な受け入れ体制を整えることで、本人のダメージを防ぎたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要性に応じて検討する。		地域包括支援センターと情報交換等の連携を図ることで、入居者の意向や必要性にいつでも応じられる準備を整えたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人や家族の意思を尊重し決定している。受診時は普段の生活の様子や病気の経過などを細かく記した情報提供書を主治医に渡すことで適切な医療が継続して受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門病院と提携し、必要時にはいつでも診断や治療が受けられるようにしている。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	入居者をよく知る常勤の看護師が日常の健康管理を行っている。主治医からの専門的な指示を看護師がわかりやすくスタッフに伝えることで、スタッフが医療的な理解を深めることができるようにしている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の早い段階から医療面での注意事項や生活指導などについて医療機関から指導をうけることで、いつでも受け入れが可能な体制を整えている。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合における対応に係る指針について説明し、理解をいただいている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	病状の悪化時には医療機関と連携をとり、出来る限りの介護を行ったうえで、主治医、家族、本人の意向に従いつつ必要な援助を検討している。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	退居者の受け入れ先には十分な情報提供を行い、新しい環境にスムーズに移行できるよう支援している。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の人格を尊重し、自尊心を傷つけないさりげない介助を心がけている。また、本人を否定せず暖かい目でもって記録に臨むようにしている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人のペースや能力に合わせた働きかけを行い傾聴の姿勢に徹することで、一人一人が思いを表せ、望む暮らしが実現できるように努めている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム側の都合に合わせた決め事はせず、個々人の生活やペースを大切にされた個別ケアを実践している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧やおしゃれを促し、身だしなみを気遣うようになることで日常生活にメリハリをつけていただくよう支援している。ボランティアによる理美容の支援をしているが、希望者には馴染みの店への送迎を行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感が味わえるように旬の食材を使用し、嗜好に合った味付けや食欲を促進する盛り付けの工夫をしている。準備や片付けについては進んで取り組んでくださる入居者の方々と共に取り組んでいる。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は食事や体調に影響がない程度にご本人の好きなものを購入していただいている。たばこは体調面への配慮から本数にある程度の制限はあるものの、希望時にすっていただいている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンの把握に努め、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。退院直後など、やむを得ずオムツを使用することがあっても徐々に布パンツへ移行する努力により、成果はでている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人一人のパターンに合わせた入浴支援に努めているが、入浴時間は大まかに決まっており、全員の希望やタイミングにあっているとは言いがたい。		職員の配置等により限界はあるものの、出来るだけ一人一人の希望に沿った入浴ができるよう努力したい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間や日課は特に決めず、一人一人が家庭にいる時同様に、自身のパターンで生活出来るように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	各自の生活歴、個性、価値観を尊重した援助を心がけている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理の出来る方はご本人に金銭管理を任せ、管理の必要な方は、小額のお金を財布に入れて所持していただいている。しまい込み等でそれも困難な場合は、通常は手元に置かず、買物時などにお金の支払いをご本人に任せるなどで個々人に応じた支援を行っている。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周辺の散歩、お参りなど希望に応じてその都度支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度職員と1対1での外出日を設け、買い物、外食、家族・友人に会いに行く等、個々人の希望通りの場所へ出かけていく支援を行っている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけるのに支援を要する方には取り次ぎをし、自身で電話をかけられる方には自身で行っていただくなど必要に応じた支援をしている。手紙は頼まれた時にその都度投函するなどの支援をしている。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	やすらぎを訪れた方を笑顔で元気に迎え入れることで、話しかけやすい雰囲気をかもしだすとともに居心地のよい空間作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束は行わないことを周知徹底させており、拘束のない生活を実践している。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各入居者の行動把握に努め、夜間以外は鍵をかけていない。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の方々と適度な距離感を保ちつつ、動向については常に注意を払っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意を要する物でもそれを必要とする入居者がいる限り完全排除はせず、注意を要する入居者の行動範囲内に置かないこと、動向を常に気に掛けることなどで危険回避をはかっている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	スタッフミーティングなど全スタッフが集まる際に、看護師を中心として緊急時の対応について学習を重ねている。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師を中心に定期的に訓練を実施している。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は年2回実施しているが、ホーム内での訓練にとどまっている。		防災訓練を地域の方々とともに実施することで、ともに助け合う意識をもてるようにしたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒、その他個人に起こりうるリスクは入居時及び状態の変化時に家族等に個別に説明を行っている。なお、転倒の危険性が高いからといって歩行の機会を奪うのではなく、リハビリや歩行訓練で下肢筋力の低下を防いで危険性を少なくするなど抑圧感のない支援を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々のバイタルサインチェック、状態観察により異常の早期発見に努めている。異変があれば、主治医や看護師の指示のもと、迅速な対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は各個人記録にファイルし、スタッフがいつでも内容確認ができるようにしている。容態の変化により薬が変わった時は、申し送り帳にて全スタッフに知らせ、その都度確認していくようにしている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食物繊維や水分不足に注意し、適度な運動を促すことで便秘予防に取り組んでいる。		

グループホーム やすらぎ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが自分で出来る方は見守り、出来ない方には支援をするなど個々人の能力に応じた支援を行い、清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリーに配慮し、摂取量・水分量を記録することで個人毎の状態把握に努め、その都度必要な支援を行っている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成し実行することで、感染予防に努めている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所は清潔を保つ、調理器具は良く洗い高温で乾燥させる、まな板は調理の最後に良く洗い熱湯をかけるなど殺菌に努めている。食材は産地のチェックを行うとともに新鮮なものを使用し、加工品は製造元にまで注意を払っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	傘入れ、表札等を玄関先に設置し、家庭的な雰囲気づくりに配慮している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、花、植木、写真、利用者の方々の手作りの品を飾り、季節感や家庭的雰囲気がかもし出せるようにしている。		

グループホーム やすらぎ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にはソファがあり、談笑したり昼寝をしたりテレビを観たり等、入居者の方々が思い思いに過ごせるくつろぎの場所となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は使い慣れた家具や装飾品を持ち込むことで馴染みの空間となれるように配慮している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	全館空調が整備されており、各居室の温度はスタッフが朝、昼、夕と気温の変化に応じてこまめに調節している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手摺を設置し、安全に移動や移乗が出来るように配慮している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	清潔感あふれる空間作りを心がけ、誤認や錯覚を引き起こす要因となるものを排除することで混乱や失敗を防ぐように努めている。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスにはテーブルを設置し、天気の良い日にはお茶を飲んだり談笑したり等、入居者の方々の楽しみの空間の一つとなっている。		

グループホーム やすらぎ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム やすらぎ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

下肢筋力の低下予防や運動不足解消を目的に毎日リハビリを実施している。また、自立した生活を送るためにも排泄の自立支援に力を入れている。居者の方々が、思い思いに自分のペースで過ごせるよう個別ケアを実践している。

入